

れるが二重になるわけである。

真心（誠）「誠意」と同じ手まね。

優さる (イ) 五指の指頭を上になし前に向けた左手の掌に、指頭を上になしした人差指の右手をつけ、その手をそのまま上へすり上げて人差指が左手の五指から上に頭角を現わす。(ロ) 「較らべる」の手まねをして次に左右何れかの手をそのまま静止しておいて、その手の上で一方の手の五指を開いて、軍配を挙げるような身振をする。何れかが「優る」こと。

真面目 「一生懸命」の手まねをして、「心」を表わして、両手の夫々集め合わせた五指の指頭で左右につけ合わせて、両手に力を入れて前に僅かに押し出す。「心」がぎっしりと固まっていること。

麻雀 人差指と親指の両手でたち並らべた麻雀の牌を前に倒おす真似。ロンした時のように。

益々 (イ) 「更に」と同じ手まね。(ロ) 「次第に」と同じ手まね。

貧しい 指頭を上になしした親指を顎の下につけ心持顎を上へ突き上げる。貧しくて口が干上るの意味か。

又 掌を下に向けて、指頭を前方になしした人差指と中指の手を、くるりと掌を上向けに返す。

亦 掌を内側にし、指頭を上になしした人差指の左手。その人差指の隣りの折り曲げられてある中指を右手で持って伸ばす。「人差指」に更に「中指も亦」と、もう一本の指を出させた訳である。

また 五指の指頭を前方になし、掌を右側にした左手に向って直角に、五指の指頭を左になし掌を内側にした右手を接近させて、僅かな間隔を置いて左手の手前で停止させる。この右手の指頭が左手掌につけると、「終り」

の手まねになる。即ち、「終り」の手前を表わしたことになるから、「まだ」である。

町(街) 家—家—家—家—と左の方から右の方へ表わして行く。家の多くたちならんでいる様。

間違ひ (1) 掌を前に向け指頭を上にした人差指と中指の手を、一方の眼に十字につけて、その掌をくると内側に返へす。(2) 掌を内側にした両手の集め合わせた五指の指頭を左右夫々の眼もとにしてから右の手をそのまま左の眼もとに、左の手を右の眼もとに位置を変える。左右を取り違えて見た間違ひの意。

待つ 五指の指頭を左にさし掌を下に向けた右手の甲を顎の下につけ、少し



心持上へ顎を押し上げるようにする。首を長くして待つこと。

松 掌の下に向けた手の人差指と中指の二指の指頭で頬を突き刺すようにつける。二本の針葉を表わしたものの。

末期 死—終り。

真先き 右手掌を下に向け指頭を左にさした人差指を左胸上部につけ(番号の一番を表わす)次にその人差指を前方にさしたまま、まっすぐに進ませる。

真直ぐ (1) 掌を右側にし五指の指頭を前方にさした左手の上に、掌を左側にし五指の指頭を前方にさした右手をのせ(左手の親指の上に右手の小指が重さなる)左手を軌道として、その上を右手がまっすぐに進んで行く。(2) 掌を左側にし五指の指頭を前方にさした右手をまっすぐに前方にさし出して行く。

全く 「凡て」と同げ手まね。